

第74回 惣菜のわかる八百屋塾レポート 2019年11月14日（木曜日）

今回のテーマは、仲卸と市場です。基調講演では、仲卸人の漫画の作者 仔鹿リカ氏にご講演いただきました。そして、パネルディスカッションでは、仔鹿氏と青果物流通にお詳しい西野氏、弊社代表黒田がパネラーとして登壇。また、モデレーターとしては、仲卸研究者の堀田氏にご登壇いただきました。



堀田朝イチ先生と仔鹿先生と市場視察の様子。

当日スケジュール

11:45～	受付開始
12:30～12:45	開会の挨拶 フルックスグループ代表 黒田 久一
12:45～14:05	基調講演 「八百森のエリー」 漫画家 仔鹿 リカ 氏
14:05～14:15	休憩
14:15～15:15	パネルディスカッション 「八百森のエリー」作者 仔鹿 リカ 氏 ベジフルプロデュース代表 西野 慎一 氏 フルックスグループ代表 黒田 久一 氏 広島県立大学生命環境学部 生命科学科 准教授 堀田 学 氏
15:15～15:25	味の和路 おせちの話 閉会のあいさつ 代表取締役社長 宇恵 善和
15:25～16:00	試食



○司会は、利田さん

司会は新入社員で総務人事部の利田さん。最初は緊張気味でしたが、徐々に緊張がほぐれ司会をしてくれました。

◇基調講演「八百森のエリー」 仔鹿 リカ先生

まずは、漫画「八百森のエリー」の紹介から始まりました。市場は縮小傾向であり、システムも古い。市場は「オワコンじゃないの？」という問いかけがありました。（「オワコン」とは終わったコンテンツを意味します）そして、生産者と消費者を結ぶ太いパイプを持つ市場の機能について、漫画を使いながら、熱く語っていただきました。

◇参加者の皆様のアンケート

- ・仲卸の機能、役割を漫画で学習できたのでわかりやすかった。
- ・仔鹿先生の市場愛を感じた。

◇パネルディスカッション

仲卸業者を研究し論文を作成された堀田先生の進行で進んでいきました。①卸売市場の存在意義や②市場が情報発信しない③働きかた改革についてをテーマに行いました。一部を記載いたします。

①卸売市場の存在意義

**代表黒田：**卸売市場は、需給バランスの場として必要中卸ではなく、仲卸である 人を介することが重要青果物は生き物である／常に目利き力が必要である→人の働が必要

**仔鹿先生：**市場はカッコいい、仲卸には差がある確実に商品を持ち、自信を持っている仲卸の漫画を描いている

②市場が情報発信しない

**西野氏：**BtoBなので、お互いに知っていたらOKだった

**仔鹿先生：**知ってもらうために日常で使える場にすることが大切

市場を日常の場として考えてもらうには、市場を知ってもらう（総合施設にする）

③働きかた改革について

**西野氏：**市場だけで解決できる問題ではない

**黒田：**若い人がくる職場環境が大切参加されていた仲卸業者の方にマイクを向け、お話を伺いました。また、奈良県中央卸売市場の立て替え構想の話にもなり、会場はもりあがっていました。

◇参加者の皆様のアンケート

仔鹿先生のご講演の感想

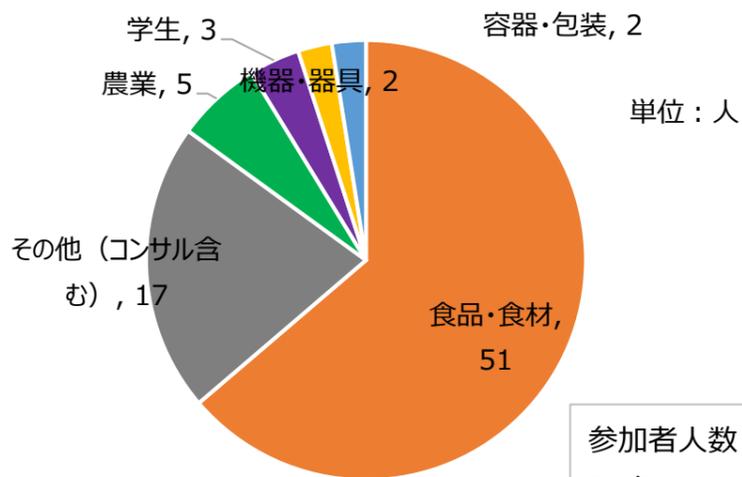
- ・市場というものを知らなかったが、仔鹿先生の話より「市場」「仲卸」の大切さを理解できた。漫画を通じてだとより多くの方に理解していただけたと思った。
- ・率直に楽しく拝聴できた。小売業ではありますが、青果物を直接取り扱うことがなく、市場の話は未知の世界でしたが、もっと深く知りたいと思える話でした。

パネルディスカッションの感想

- ・情報発信の話、皆様角度が異なっており、非常に面白かった。これが正解で特効薬はないと思いますが、携わるすべての人が同じ思いで小さなアクションを起こすことが重要だと思います。変化をすぐに起こすことは難しいですが、エンドユーザーに最も近い我々、小売業にも貢献できればうれしく思います。

◇惣菜のわかる八百屋塾 事務局より

「仲卸と市場」という難しい？テーマに取り組みました。仔鹿先生の漫画の力もあり、仲卸のことが理解できたというアンケートも多くいただきました。次回は年明け2月28日です。来年もよろしくお願い申し上げます。



商品開発部長杉本のメニュー紹介



試食コーナー

さつまいものやジャガイモの食べ比べもありました。

